

2021 年 12 月 1 日

各 位

株式会社日本カストディ銀行

SDGs への取組み強化（マテリアリティの策定）について

株式会社日本カストディ銀行（代表取締役社長 田中嘉一、以下、CBJ という。）は、SDGs（Sustainable Development Goals／持続可能な開発目標）の達成を重要な経営課題として捉え、企業理念に沿った企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献するために、SDGs への取組みを以下の通り強化していくことといたしました。

記

1. CBJ の企業理念と SDGs

CBJ の企業理念である「我が国 No.1 の資産管理専門銀行として、資産運用事業の発展と国民の資産形成の一翼を担い、経済・社会の健全な発展に貢献します」は、SDGs の理念と考え方を共有するものであります。

また、金融インフラである当社にとって、SDGs への取組み強化は社会的責任であると認識し、資産管理専門銀行のリーディングカンパニーとして、今後も積極的に SDGs の達成に取り組んでまいります。



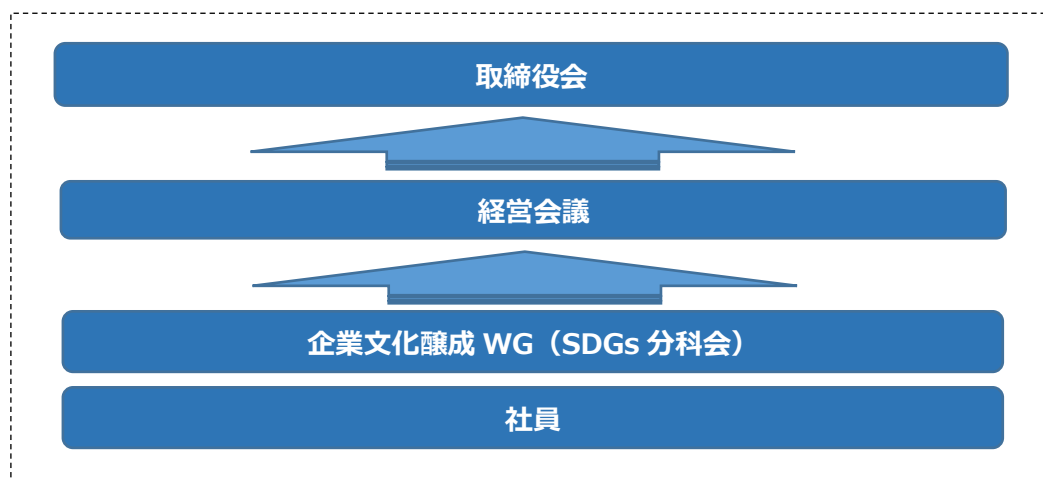
2. マテリアリティ策定プロセス

SDGsに関するマテリアリティ（優先課題）策定にあたっては、当社内に設置した企業文化醸成ワーキンググループ（SDGs分科会）において、まずは、当社企業理念等とSDGsとの関係、当社コアコンピタンス*とSDGsとの関係、更には当社サプライチェーンとSDGsとの関係の整理を行いました。

その上で、当社にとってのマテリアリティを策定するためのフレームワークを議論し、これに基づき、当社の企業理念およびビジョンを掘り下げていく演繹法的アプローチと、日常業務から課題を導き出す帰納法的アプローチの両面から検討いたしました。

この間、随時、社員とセッションを行い、SDGsの理解を深めるための全社員向け研修を実施するなどのプロセスを経て、社外取締役を含めた役員間での議論を重ね、最終的に11月開催の取締役会において当社の9つのマテリアリティを策定（決議）いたしました。

※コアコンピタンス：企業が創業当時から現在に至るまでに洗練してきた技術・経験・知識・人材といった独自の強みであり、今後も競争優位に繋がる中核的な能力



3. CBJ ビジョンと9つのマテリアリティ

CBJ ビジョンに掲げる「社会」「お客さま」「社員」の各ステークホルダーへのコミットメントに、企業活動の前提となる「環境」を加えたフレームワークの下、当社として優先的に取り組む課題として、以下のとおり9つのマテリアリティを策定いたしました。

フレームワーク		マテリアリティ	関連する SDGs
C B U D Y J P N	「社会」 高品質かつ安定的なサービスを提供し、金融インフラとして、社会の信頼にお応えします。	1.金融インフラとしての社会的責任への対応	
		2.資産運用事業発展への貢献	
		3.経済発展と豊かな国民社会への貢献	
		4.ガバナンス体制の高度化	
	「お客さま」 環境の変化に対応し、お客さまの多様なニーズに応えるベストパートナーを目指します。	5.お客さま第一の考えの下、高品質・高効率なサービスの提供	
		6.お客さまの多様なニーズへの対応	
	「社員」 資産管理のプロとしての誇りを持ち、社員が生き生きと働く企業であり続けます。	7.プロフェッショナル人材の育成	
		8.ダイバーシティ&インクルージョンの推進	
	「環境」 企業活動において、省エネルギー、省資源、資源循環等の環境配慮に十分努めます。	9.環境に十分配慮した企業活動の実践	

■HPにおける公表

SDGs への取組みについては、当社のHP (<https://www.custody.jp/>) に掲載いたします。今後、具体的な活動などについて順次更新してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ：株式会社日本カストディ銀行
 経営企画部（広報担当）
 tel:03-6220-4000